2014 年 2 月 3 日

各　　位

会　社　名　**アステラス製薬株式会社**
代　表　者　代表取締役社長　畑中　好彦
コード番号　４５０３
（URL　　http://www.astellas.com/jp）
東　　証　（　第　一　部　）
決　算　期　３月
問合わせ先　広報部長　　河村　真
Tel：（０３）３２４４－３２０１

アステラス製薬　2013 年度第 3 四半期決算カンファレンスコール資料について

アステラス製薬株式会社（本社：東京、社長：畑中 好彦）は、本日（2 月 3 日）、2013 年度（2014 年 3 月期）第 3 四半期決算（2013 年 4 月 1 日から 12 月 31 日までの累計期間）を発表しました。これを受けて、本日 15 時 00 分より、添付資料にもとづき証券アナリスト・機関投資家・報道機関向けにカンファレンスコールを開催します。

同資料には当第 3 四半期決算の概況並びに新薬パイプラインの進捗状況等をまとめています。

以　上

2013年度第3四半期決算概況

2014年2月3日
アステラス製薬株式会社
上席執行役員　財務担当（CFO）
桝田 恭正

注意事項

資料中の業績見通し数値及び開発見通し等の将来に関する記述は、当社が現在得ている情報をもとになされた当社の判断に基づくものであり、既知あるいは未知のリスクや不確実な要素を含んでいます。実際の結果は、様々な要因によりこれら将来に関する記述内容とは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。そのような要因の例としては、経済情勢の悪化、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、新製品上市の遅延、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的財産権に対する侵害、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、これらに限定されるものではありません。
医薬品（開発中の物を含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

2013年度第3四半期(累計期間)決算概況

(億円)

	2012年度 3Q実績	2013年度 3Q実績	増減率	2013年度 予想#	対予想 進捗率
売上高	7,551	8,874	+17.5%	11,550	76.8%
売上原価	2,456	2,728			
売上高比率	32.5%	30.7%	ー		
研究開発費	1,341	1,559	+16.3%	2,120	73.6%
売上高比率	17.8%	17.6%			
その他販管費	2,403	3,065	+27.5%		
営業利益	1,350	1,520	+12.6%	1,700	89.4%
経常利益	1,364	1,485	+8.9%	1,700	87.4%
四半期純利益	846	814	-3.7%	1,000	81.5%

#2013年度2Q決算公表時の修正予想値

特別損益(net) -296億円
・事業再編費用(研究体制の再編、富士工場の承継)
・特許権などの減損損失

減価償却費[有形+無形](億円)
・2013年度3Q: 457
・2012年度3Q: 342

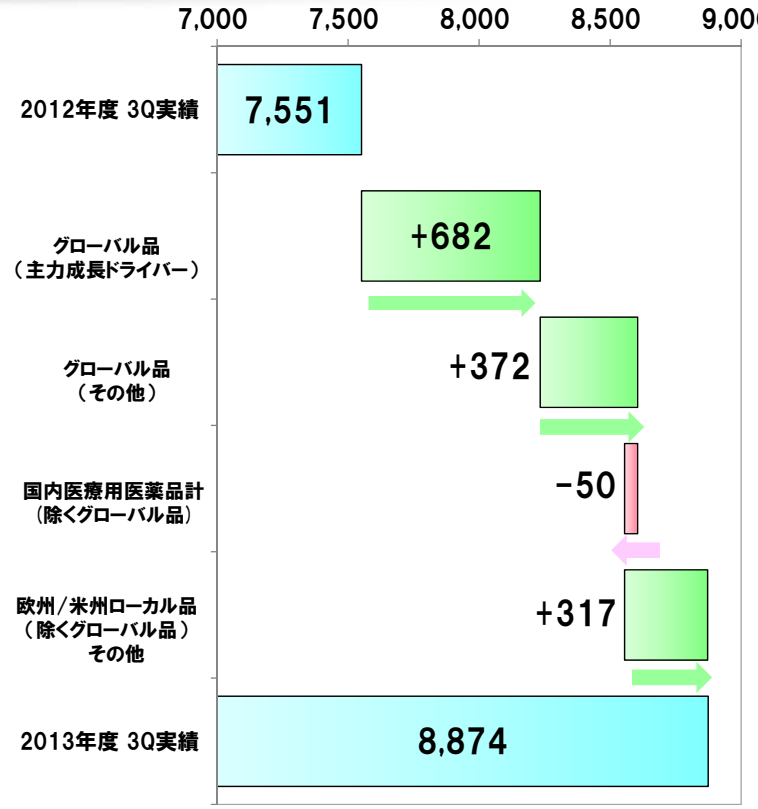
のれん償却費(億円)
・2013年度3Q: 43
・2012年度3Q: 87

◆ 為替の状況

【期中平均レート】	2012年度3Q	2013年度3Q	変動	2013年度想定
ドル	80円	99円	19円安	99円
ユーロ	102円	132円	30円安	130円

【期首-期末の変動】	2012年度3Q	2013年度3Q
ドル	4円安	11円安
ユーロ	5円安	24円安

2013年度第3四半期業績:売上高の変動要因(前同比較)



売上高: +1,322億円

為替の影響: +968億円

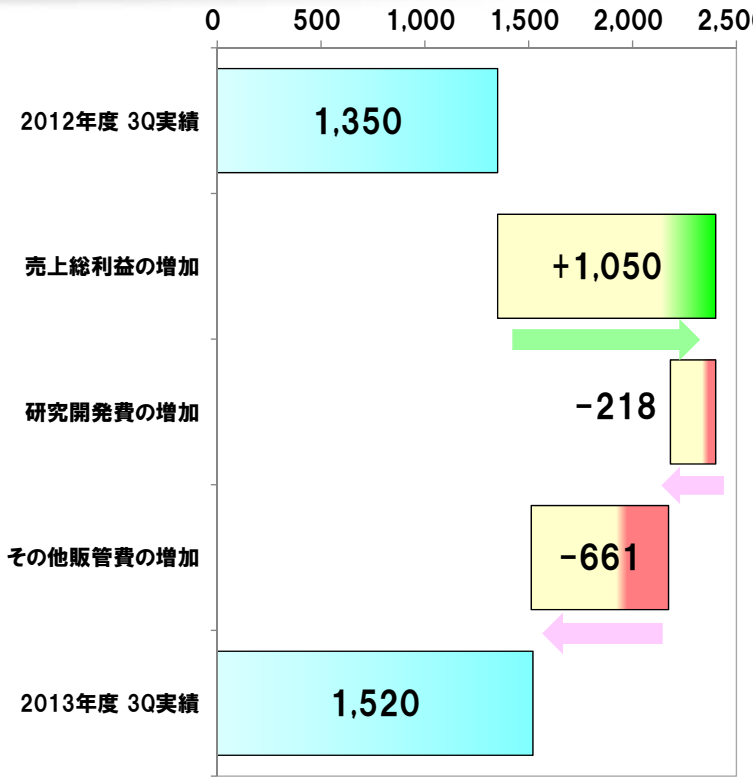
①グローバル品(主力成長ドライバー): +682
ベシケア+217 / ミラベグロン +153 / XTANDI +310

②グローバル品(その他): +372
プログラフ+185 /ハルナール +56 /
ファンガード+45/プロトピック +55 / エリガード+29

③国内医薬品計(除くグローバル品):-50
新製品+成長品 +164 / ミカルディス+54
リピトール -56 / ガスター -31 / マイスリー -34 /
セロクエル -73

④欧州/米州ローカル品(除くグローバル品)
その他: +317
スキャン +97 / タルセバ +74 /
欧州その他製品群 約+150

2013年度第3四半期業績：営業利益の変動要因（前同比較）



営業利益：+170億円

為替の影響：+191億円

売上高の増加：+1,322
売上原価の増加：-271
} 売上総利益の増加 +1,050
原価率低下 -1.8ppt（32.5%→30.7%）
-製品構成の変化等 -2.6ppt
-未実現利益消去の為替の影響 +0.8ppt

研究開発費の増加：-218
-主として為替の影響

その他販管費の増加：-661
-欧米のがんビジネス関連費用
-新興国での営業力強化
-新製品立ち上げ関連費用

地域別売上高（現地通貨ベース）

＊売上元会社の所在地に基づき集計

日本は若干の減収。米州・欧州・アジアは順調に売上拡大

日本

（億円）
4,324
4,258
（前同比-1.5%）
12年度3Q
13 年度3Q

日本市場の売上高：
4,150億円（-0.4%）

・後発医薬品の影響を受けたが、主力の成長品と新製品の拡大により、微減に留まる



欧州

＊中近東・アフリカを含む

（百万ユーロ）
1,416
1,512
（前同比+6.7%）
12年度3Q
13年度3Q

・新製品XTANDI、ベトミガの寄与
・ベシケア、マイカミンが伸長



米州

（百万ドル）
1,840
2,197
（前同比+19.4%）
12年度3Q
13年度3Q

・新製品XTANDI、ミラベトリックの寄与
・ベシケア、タルセバの成長



アジア

＊オセアニアを含む

（億円）
307
432
（前同比+40.7%）
+11.7%
（除く為替の影響）
12年度3Q
13年度3Q

・全ての主力品が伸長

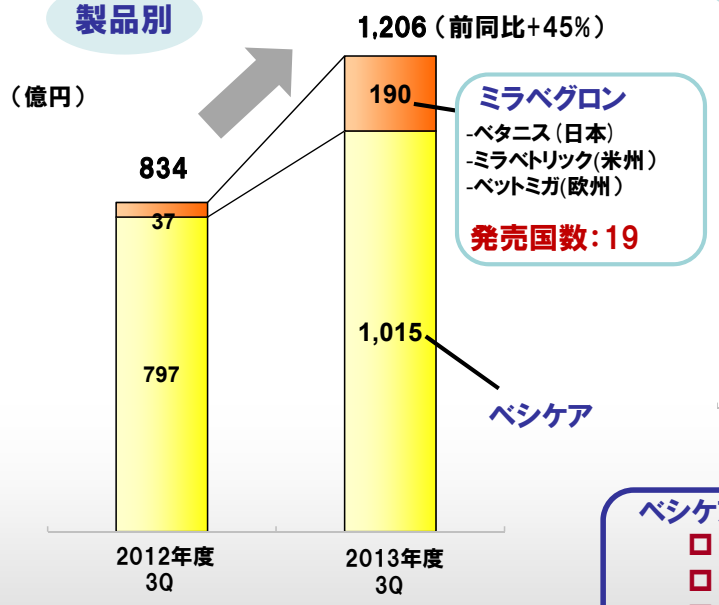


泌尿器OABフランチャイズ

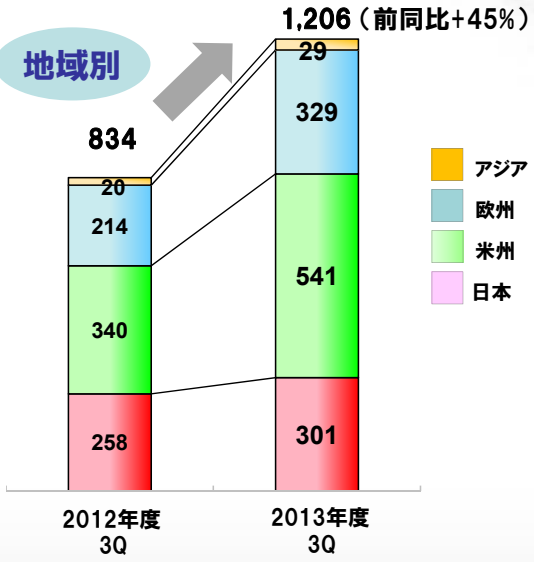
ベシケアの成長と新製品ミラベグロンの寄与で売上拡大

ベシケア、ミラベグロンの売上合計

製品別



地域別



ベシケア＋ミラベグロンの成長率[前同比]

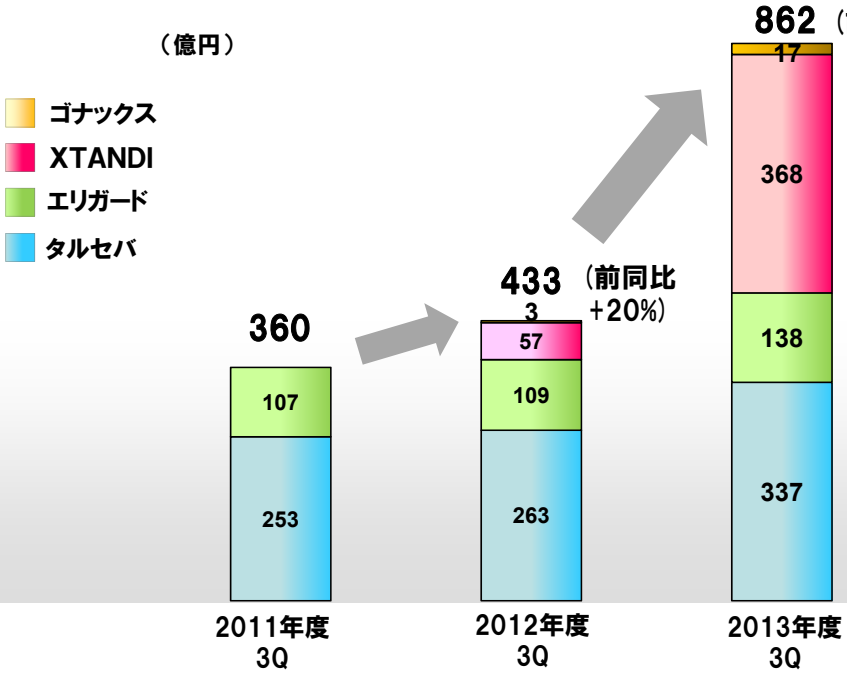
- 日本： +17%
- 米州： +28%（ドルベース）
- 欧州： +19%（ユーロベース）
- アジア：+17%（除く為替の影響）

OAB：過活動膀胱

がん領域フランチャイズ

新製品XTANDIの寄与により、がんフランチャイズは大きく拡大

XTANDI、タルセバ、エリガード、ゴナックスの売上合計



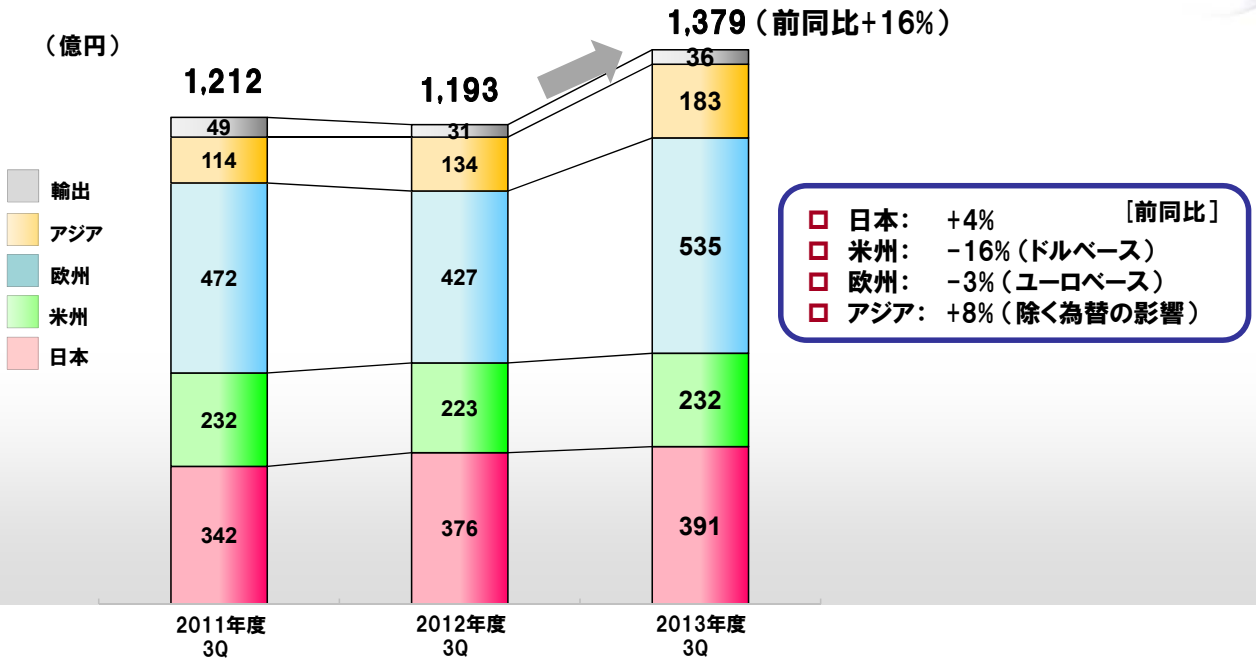
- **XTANDI**
  - 米州 322 百万ドル
  - 欧州 36 百万ユーロ

  発売国数：19
- **エリガード**
  - 欧州 104 百万ユーロ
    前同比 -2%（ユーロベース）
- **タルセバ関連収入**
  340 百万ドル
  前同比 +3%（ドルベース）

移植フランチャイズ

日本とアジアの成長により、グローバル売上を維持

プログラフ、アドバグラフ／グラセプター／アスタグラフXLの売上合計



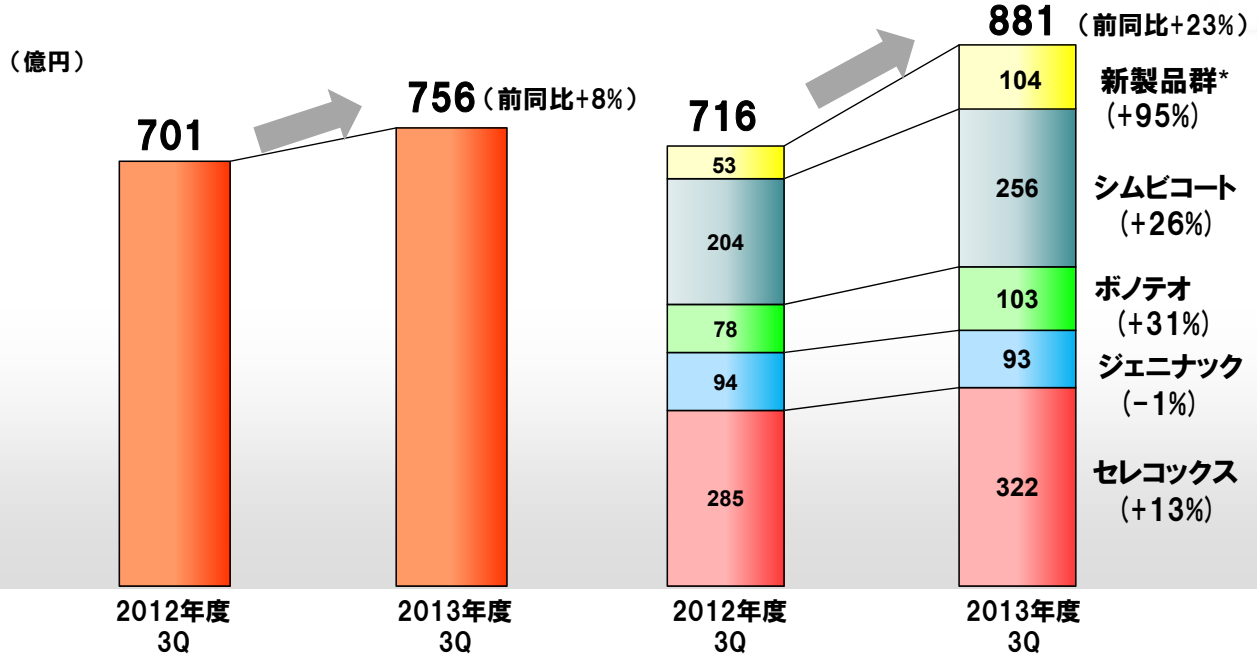
［前同比］
- 日本： +4%
- 米州： −16%（ドルベース）
- 欧州： −3%（ユーロベース）
- アジア： +8%（除く為替の影響）

日本 主要製品群（グローバル製品除く）

主力成長品と新製品の売上は着実に拡大

ミカルディス［ファミリー］

新製品群・成長品群



*新製品群：3年以内に発売した製品の合計売上（アーガメイト、キックリン、レグナイト、ゴナックス、シムジア、アコファイド）

2013年度通期業績予想

（億円）

	前回公表予想#	今回公表修正予想	差異
売上高	11,550	11,550	0
研究開発費 売上高比率	2,120 18.4%	2,120 18.4%	0
営業利益	1,700	1,700	0
経常利益	1,700	1,700	0
当期純利益	1,000	950	-50

#2013年度2Q決算公表時の修正予想値

◆ 想定為替レート（期中平均）は前回予想を据え置く

ドル	99.4円	99.4円
ユーロ	130.0円	130.0円

□ 売上高、営業利益、経常利益は2013年11月公表の予想を据え置き

□ 当期純利益は、2013年11月公表の予想から50億円下方修正

前回公表の予想には織り込んでいなかった特許権の減損損失（3Q計上）や所有不動産の売却益（4Q計上見込み）等を織り込み修正

利益配分等に関する方針

- 成長を実現するための事業投資を最優先
- 中長期的な利益成長に基づき、配当は安定的かつ持続的に向上
- 自己株式取得は機動的に実施

	2011年度	2012年度	2013年度（予想）
EPS	169.38円	180.40円	211.44円*
一株配当	125円	130円	135円
ROE	7.7%	8.0%	—
DOE	5.7%	5.7%	—
自己株式取得(**)	—	1,080万株 （493億円）	機動的に実施*
自己株式消却	—	—	1,100万株 （2013年5月実施済み）

**単元未満株式買取分を除く

2013年度中間配当 1株当たり 65円

*2013年11月5日～12月12日に299億円（503万株）の自己株式取得を実施。EPSに反映済み。

astellas
Leading Light for Life

新薬パイプライン

astellas
Leading Light for Life

パイプラインの状況

:自社品新規　:自社品 追適・追剤　:導入品　赤:前回決算からの変化

	申請中	P3	P2	P1
泌尿器疾患		ソリフェナシン(小児、欧米) ソリフェナシン/ミラベグロン(欧米亜)	ASP3652(BPS/IC、欧) ASP4901 (AKP-002) (BPH、日)	ASP0306 ASP3652 (日) ASP6432
免疫疾患(移植を含む)および感染症		セルトリズマブ ペゴル(RA(メトトレキサート未治療)、日) イサブコナゾール(アスペルギルス、カンジダ、欧米) フィダキソマイシン(感染性腸炎、日) ASP0113(造血細胞移植時CMV感染抑制、欧米) ASP7374(インフルエンザ、日)	ASKP1240(移植、米) ASP015K(RA、日) ASP7373(インフルエンザ、日) ASP0113(臓器移植時CMV感染抑制、欧米、造血細胞移植時CMV感染抑制、日)	ASKP1240 (日)
がん	エンザルタミド(前立腺がん、日)	エンザルタミド(前立腺がん(化学療法未治療、欧米日亜/非転移性、欧米亜)) エルロチニブ(NSCLC等、米) デガレリクス(3ヶ月製剤、日) rilotumumab(胃がん、日)	リンシチニブ(卵巣がん、米) チボザニブ(乳がん・大腸がん、欧米) エンザルタミド(乳がん、欧米)	AGS-16M8F・AGS-16C3F ASG-22ME ASP1707 (前立腺がん、欧) ASP9853, ASG-15ME, ASP2215, ASP5878, AMG 337, ASP8273
精神・神経疾患		クエチアピン(双極性障害、日) カプサイシン(糖尿病性神経因性疼痛、欧)	ASP8477(神経因性疼痛、欧)	ASP9226 ASP3662 ASP7962
糖尿病合併症および腎疾患、その他		roxadustat(慢性腎疾患に伴う貧血、欧) ベラプロスト(慢性腎不全、日亜) ビキサロマー(保存期慢性腎不全患者 高リン血症、日) ラモセトロン(IBS女性、日) ナテグリニド(2型糖尿病、日) romosozumab (骨粗鬆症、日) evolocumab (脂質異常症、日)	roxadustat(慢性腎疾患に伴う貧血、日) YM311(腎性貧血、欧) リナクロチド(IBS、日) ASP1707(子宮内膜症、欧日) ASP7991(副甲状腺機能亢進症、日)	ASP7991 YM311 (日) ASP8232 ASP3325 CK-2127107

BPS/IC: 膀胱痛症候群/間質性膀胱炎、BPH: 前立腺肥大症、RA:関節リウマチ、CMV:サイトメガロウイルス、NSCLC:非小細胞肺がん、IBS:過敏性腸症候群

2013年11月からの変化 <承認、ステージアップ>

■ 承認

製品名 （一般名）	対象疾患	地域	ステージ	変化
ドルミカム （ミダゾラム）	歯科・口腔外科領域における 手術及び処置時の鎮静	日本	承認	2013年12月に日本で承認 （効能追加）。
スーグラ （イプラグリフロジン）	2型糖尿病	日本	承認	2014年1月に日本で承認。

■ ステージアップ

開発コード 一般名	対象疾患	地域	ステージ	変化
フィダキソマイシン	感染性腸炎 （適応菌種： クロストリジウム・ディフィシル）	日本	P3	日本でP3入り。
AMG 102 rilotumumab	胃がん	日本	P3	日本でP3入り。
ASP7991	二次性 副甲状腺機能亢進症	日本	P2	日本でP2入り。

astellas
Leading Light for Life

2013年11月からの変化 <新規>

■ 新規P1

開発コード	対象疾患	ステージ	変化
AMG 337	胃がん	P1	日本でP1/2試験を開始。
ASP8273	がん	P1	新規P1入り。
ASP7962	変形性関節症 慢性腰痛	P1	新規P1入り。

astellas
Leading Light for Life

2013年11月からの変化 <開発中止等>

■ 開発中止

開発コード	対象疾患	ステージ	中止理由
ASP3026	がん	P1	戦略的な観点から開発を中止した。

■ 一部適応の開発中止

開発コード 一般名	対象疾患	地域	ステージ	中止理由
エルロチニブ	非小細胞肺がん (~~アジュバント療法、~~ MetMAbとの併用療法)、 小児上衣腫	米国	P3	・P3試験において主要評価項目が達成されなかったため、非小細胞肺がん(アジュバント療法)の適応での開発を中止した。 ・他の適応症での開発は継続する。
FK949E クエチアピン	双極性障害における うつ状態	日本	P3	・日本で実施したP2試験において期待された有効性の結果が得られなかったため、大うつ病性障害の適応での開発を中止した。 ・双極性障害におけるうつ状態での開発は継続する。
	~~大うつ病性障害~~	~~日本~~	~~P2~~	

抗がん剤パイプライン

	PJ	がん種	特徴	P1	P2	P3	申請
低分子	エンザルタミド (XTANDI)	前立腺がん (化学療法未治療、非転移性)、 乳がん	アンドロゲン受容体阻害剤	前立腺がん:日本 化学療法未治療:欧米日亜 非転移性:欧米亜 乳がん:欧米			
	エルロチニブ (タルセバ)	非小細胞肺がん(MetMAbとの併用療法)、小児上衣腫	HER1/EGFRチロシンキナーゼ阻害剤	米国			
	デガレリクス (ゴナックス)	前立腺がん	日本初のGnRHアンタゴニスト	3M製剤:日本			
	チボザニブ ASP4130	大腸がん、乳がん	強力かつ選択的で半減期の長いVEGF受容体1,2,3阻害剤	欧米			
	リンシチニブ ASP7487 (OSI-906)	卵巣がん	IGF-1R/IRチロシンキナーゼ阻害剤	米国			
	ASP1707	前立腺がん*	経口のGnRHアンタゴニスト				
	ASP9853	がん					
	ASP2215	がん					
	ASP5878	がん					
	AMG 337	胃がん	MET阻害剤	日本			
	ASP8273	がん					
抗体	rilotumumab AMG 102	胃がん	抗HGF抗体	日本			
	AGS-16M8F・ AGS-16C3F	腎臓がん	ADC技術を活用した抗体 (標的:ENPP3)				
	ASG-22ME	固形がん	ADC技術を活用した抗体 (標的:ネクチン-4)				
	ASG-15ME	膀胱がん	ADC技術を活用した抗体 (標的:SLITRK6)				

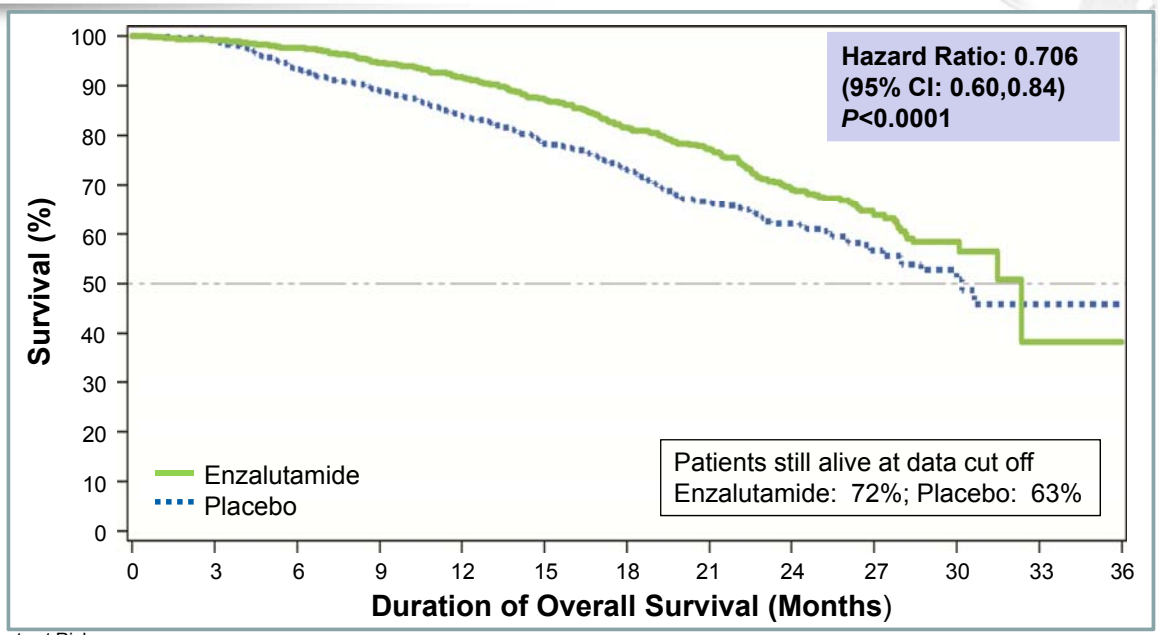
*子宮内膜症でP2

エンザルタミド：開発の進展

試験	対象	デザイン	P1	P2	P3	申請
欧米 P3試験 ［AFFIRM試験］	化学療法後 転移性去勢抵抗性前立腺がん	プラセボ対照 (n=1,199)	試験終了 米国・欧州等で発売			
日本 P1/2試験	化学療法後 転移性去勢抵抗性前立腺がん	オープン試験 (n=46)	申請：2013年5月24日 申請適応症は前立腺がん 優先審査に指定			
欧米日亜 P3試験 ［PREVAIL試験］	化学療法未治療 転移性去勢抵抗性前立腺がん	プラセボ対照 (n=1,717)	中間解析の結果が判明： 2013年10月 申請準備中			
欧米亜　P3試験 ［PROSPER試験］	M0 CRPC 非転移性去勢抵抗性前立腺がん	プラセボ対照 (n=1,500)	患者組み入れ開始： 2013年11月			
欧米　P2試験 ［TERRAIN試験］	化学療法未治療 転移性去勢抵抗性前立腺がん	ビカルタミドとの比較試験 (n=375)	患者組み入れ終了： 2013年7月			
米国　P2試験 ［STRIVE試験］	化学療法未治療 転移性または非転移性 去勢抵抗性前立腺がん	ビカルタミドとの比較試験 (n=400)	実施中			
米国 P2試験	ネオアジュバント療法 前立腺切除術実施前	単剤またはリュープロレリン、デュタステリドとの併用 (n=50)	最終症例投与終了： 2013年11月			
欧州 P2試験	ホルモン療法未治療 進行性前立腺がん	オープン試験 (n=67)	試験終了			
欧米 P2試験	乳がん アンドロゲン受容体陽性の トリプルネガティブ進行再発乳がん	オープン試験 (n=80)	患者組み入れ開始： 2013年6月			
欧米 P2試験	乳がん エストロゲン受容体陽性または プロゲステロン受容体陽性で HER2正常の進行性乳がん	プラセボ対照、エキセメスタンとの併用 (n=240)	患者組み入れ開始： 2013年12月			

エンザルタミド：PREVAIL試験の有効性の結果（全生存期間）

2014年1月30日 米国臨床腫瘍学会 泌尿器癌シンポジウム（ASCO-GU）の発表資料より抜粋 （発表：T.M.Beerら）



Patients at Risk

Enzalutamide	872	863	850	824	797	745	566	395	244	128	33	2	0
Placebo	845	835	781	744	701	644	484	328	213	102	27	2	0

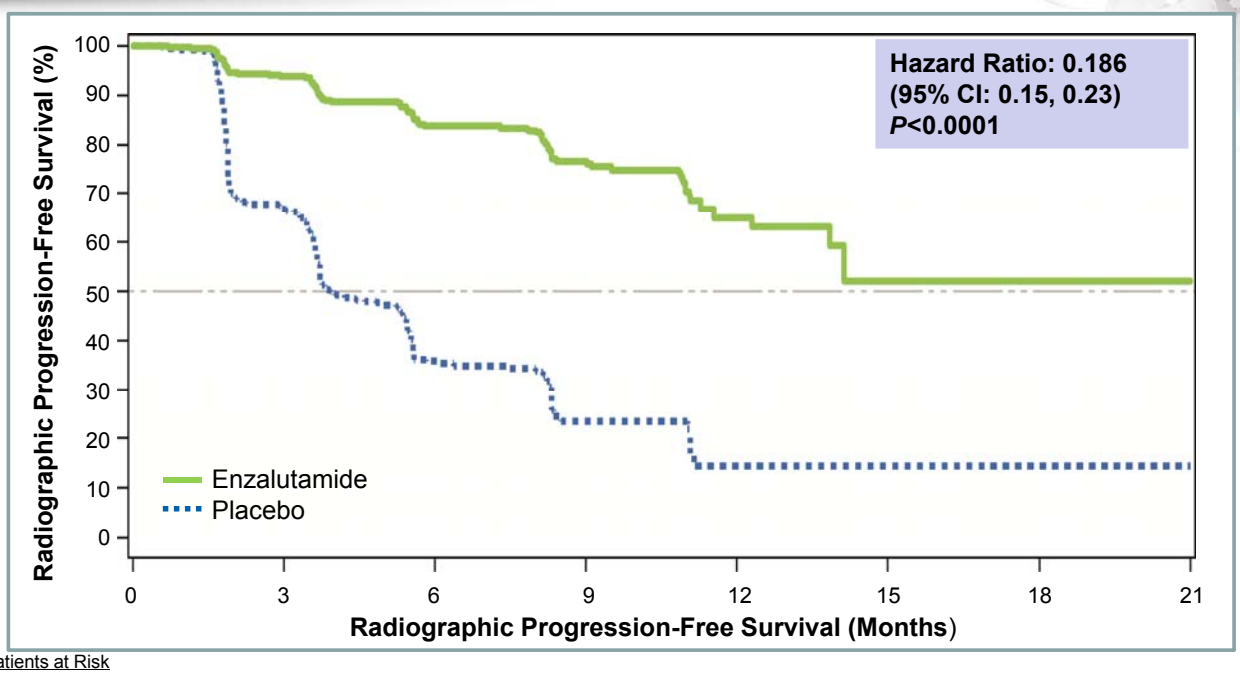
Estimated median OS, months (95% CI): Enzalutamide: 32.4 (30.1, NYR); Placebo: 30.2 (28.0, NYR)

NYR = Not Yet Reached

- エンザルタミドはプラセボと比較し、死亡のリスクを29%低下させた。
- プラセボ群の70%、エンザルタミド群の40%の患者が治験薬の投与終了後に継続して後治療薬による治療を受けたが、このベネフィットが確認された。

エンザルタミド：PREVAIL試験の有効性の結果（画像診断による無増悪生存期間）

2014年1月30日 ASCO-GUの発表資料より抜粋
（発表：T.M.Beerら）



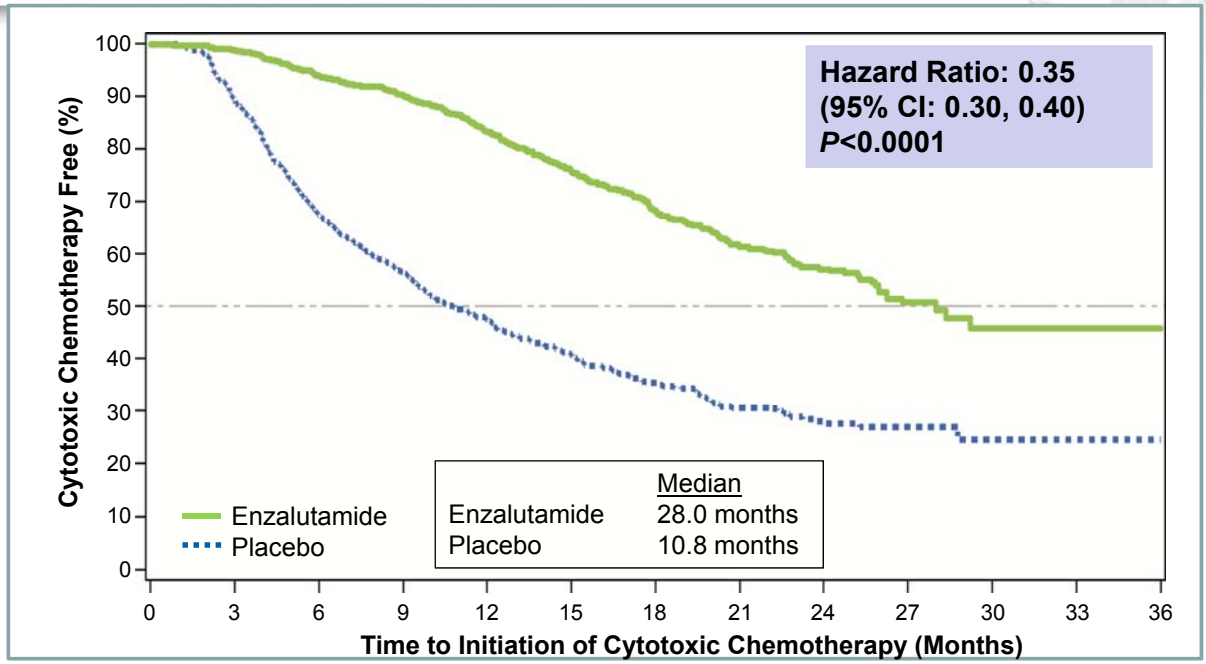
Patients at Risk								
Enzalutamide	832	514	256	128	34	5	1	0
Placebo	801	305	79	20	5	0	0	0

Estimated median rPFS, months (95% CI): Enzalutamide: NYR (13.8, NYR); Placebo: 3.9 (3.7, 5.4)

エンザルタミドはプラセボと比較し、画像診断による増悪または死亡のリスクを81%低下させた。

エンザルタミド：PREVAIL試験の有効性の結果（化学療法開始までの時間）

2014年1月30日 ASCO-GUの発表資料より抜粋
（発表：T.M.Beerら）



Patients at Risk													
Enzalutamide	872	854	799	751	665	575	388	252	158	78	21	2	0
Placebo	845	734	518	415	324	257	165	103	64	25	9	0	0

エンザルタミドは、化学療法を開始するまでの期間の中央値をプラセボと比較して約17か月遅らせることができた。

エンザルタミド：PREVAIL試験の有効性の結果（PSA、Quality of Life）

2014年1月30日 ASCO-GUの発表資料より抜粋（発表：T.M.Beerら）

	Enzalutamide (n=872)	Placebo (n=845)	Hazard Ratio *P* Value
Time to PSA progression,* median, months	11.2	2.8	0.169 <0.0001
Time to FACT-P global score decline†, median, months	11.3	5.6	0.625 <0.0001

	Enzalutamide (n=854)	Placebo (n=777)	*P* Value
Confirmed PSA response rates‡ ≥ 50% decline from baseline ≥ 90% decline from baseline	 78.0% 46.8%	 3.5% 1.2%	 <0.0001 <0.0001

*PSA progression defined by PCWG2 criteria; † Functional Assessment of Cancer Therapy-Prostate decline defined as ≥10 point decrease in global score; ‡patients with baseline and ≥1 post-baseline PSA.
PCWG2=Prostate Cancer Working Group.

エンザルタミドはプラセボと比較し、PSA、Quality of Lifeの評価項目を有意に改善した。

エンザルタミド：PREVAIL試験の安全性の結果（1）

2014年1月30日 ASCO-GUの発表資料より抜粋（発表：T.M.Beerら）

	Enzalutamide (n=871)	Placebo (n=844)
Duration of treatment, median, months	16.6	4.6
Adverse events	96.9%	93.2%
Serious adverse events	32.0%	26.8%
Grade 3+ adverse events	42.9%	37.1%
Time to first grade 3+ adverse events, median, months	22.3	13.3
Discontinuations due to adverse events	5.6%	6.0%
Adverse events leading to death	4.2%	3.8%

エンザルタミド：PREVAIL試験の安全性の結果（2）

2014年1月30日 ASCO-GUの発表資料より抜粋（発表：T.M.Beerら）

Most Common Adverse Events* and Adverse Events of Interest

	All Grades (%)		Grade 3+ Events (%)	
	Enzalutamide (n=871)	Placebo (n=844)	Enzalutamide (n=871)	Placebo (n=844)
Fatigue	35.6	25.8	1.8	1.9
Back pain	27.0	22.2	2.5	3.0
Constipation	22.2	17.2	0.5	0.4
Arthralgia	20.3	16.0	1.4	1.1
Cardiac adverse events	10.1	7.8	2.8	2.1
Hypertension	13.4	4.1	6.8	2.3
ALT increased	0.9	0.6	0.2	0.1
Seizure	0.0†	0.1	0.0†	0.0

*At least 20% on enzalutamide and ≥2% more than placebo.
†one seizure occurred after the data cutoff date.

エンザルタミドは投与された期間にわたって良好な忍容性を示した。

ASP7374：季節性インフルエンザの予防における2つの第III相試験で良好な結果サマリー判明

20歳以上65歳未満の成人を対象とした二重盲検試験

試験概要	対象	20歳以上65歳未満の健康成人
	デザイン、投与群	二重盲検試験（鶏卵ワクチン、ASP7374）
	症例数	900例
	主要評価項目	免疫原性

・国内で既承認の孵化鶏卵ワクチンに対するASP7374の非劣性が検証された。
・安全性に大きな問題がないことが確認された。

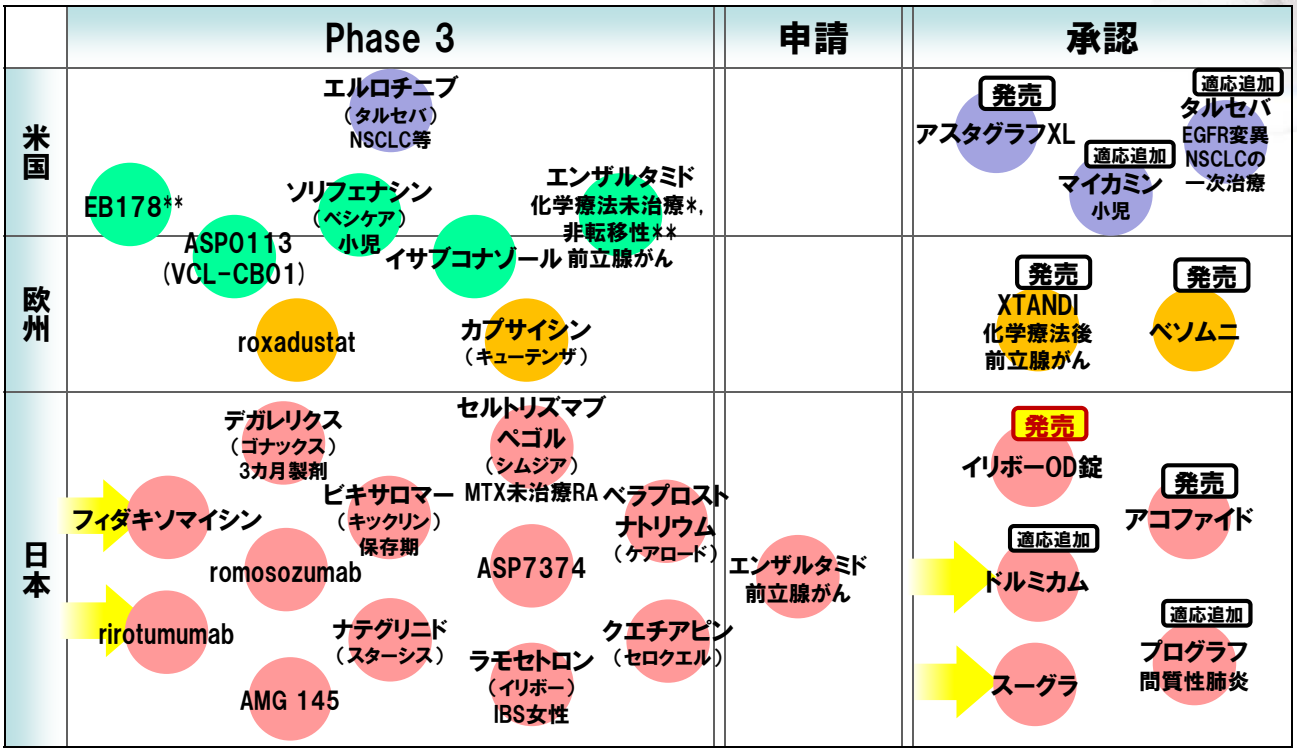
61歳以上の成人を対象とした筋肉内接種の非盲検試験

試験概要	対象	61歳以上の健康成人
	デザイン、投与群	非盲検試験（1群）
	症例数	55例
	評価項目	免疫原性

・ASP7374の筋肉内接種での良好な免疫原性が確認された。
・安全性に大きな問題がないことが確認された。

2014年中に日本で申請予定

2013年度　後期開発品の進展



継続成長に向けた取り組み

-Build Resilience for Sustainable Growth-

astellas
Leading Light for Life

重点課題への取り組み

新製品価値の最大化

がん領域の強化（XTANDI拡大・追加適応症）
OABフランチャイズの最大化（ベシケア、ミラベグロン）
継続的な新製品の上市

新薬創出力の強化

研究体制の改革
- 外部リソースの活用によるオープンイノベーション推進
- 新たな疾患領域や創薬基盤技術への挑戦

新たな取り組み
- 免疫生物研究所との共同研究
- クリアパス社との戦略的提携

オペレーションの高質化

経営資源配分の最適化と外部リソースの活用

新たな取り組み
- 三井不動産への所有不動産の包括譲渡
- 大鵬薬品への醗酵創薬研究に関する資産の譲渡

継続的な新製品投入（2013年4月以降の取り組み）

■4極における承認・発売（赤字：前回決算発表からのアップデート）

【欧州】
- 7月 XTANDI発売*
- 9月 ベソムニ発売

【アジア・オセアニア】
- 5月 オーストラリア マイカミン承認
- 6月 香港 エリガード発売
- 8月 マレーシア マイカミン承認
- 9月 オーストラリア ミラベグロン承認
- 10月 韓国 XTANDI発売*
- 10月 インドネシア プログラフXL発売（タクロリムス徐放性製剤）
- 11月 タイ エリガード発売
- 12月 ベトナム エリガード承認
- 12月 香港・韓国 ミラベグロン承認
- 12月 シンガポール マイカミン承認

【日本】
- 5月 ミカムロBP発売
- 6月 アコファイド発売
- 6月 プログラフ効能追加
- 9月 ビソノテープ発売
- 12月 ドルミカム効能追加（歯科・口腔外科領域における手術及び処置時の鎮静）
- 1月 イリボーOD錠発売（過敏性腸症候群）
- 1月 スーグラ承認（2型糖尿病）

【米州】
- 4月 カナダ ミラベトリック発売
- 5月 米国 タルセバ効能追加
- 6月 米国 マイカミン 小児への効能追加
- 6月 カナダ XTANDI発売*
- 8月 米国 アスタグラフXL発売（タクロリムス徐放性製剤）
- 9月 アルゼンチン XTANDI承認*

発売国数
- ミラベグロン： 19
- XTANDI： 19

*化学療法施行歴を有する転移性去勢抵抗性前立腺がん

新たな疾患領域や創薬基盤技術への挑戦

骨格筋の減弱に関連する疾患や病状に対する新規の治療法の開発	• サイトキネティックス社と研究、開発、及び商業化に関する提携
ミトコンドリア機能を改善する新薬の創製	• マイトカイン社と共同研究・開発（会社を買い取る独占的な権利も保持）
遺伝子組換えカイコを用いて生産されるヒト型タンパク質の医薬品応用	• 免疫生物研究所と共同研究
RSウイルス*感染予防ワクチンの開発	• クリアパス社との戦略的提携により、マイメティックス社からワクチンを導入
再生医療への取り組みを拡大	• 細胞治療への本格的な取り組み

*呼吸器合胞体ウイルス

クリアパス社とのワクチンポートフォリオ構築に関する戦略的提携

独創的なスキームにより、ワクチンビジネスを展開



RSV社を買い取り、ワクチンの開発・事業化を行う独占的な権利

開発費を負担（POC試験終了まで）

豊富なワクチン臨床開発経験

管理・運営

導入

RSV社

RSウイルス感染予防ワクチンを開発

最先端Virosome作製技術*

・契約一時金及び開発マイルストン（最大82百万ドル）
・ロイヤリティ

*ウイルスから感染を引き起こす遺伝物質を除去し、主に免疫系のターゲットとなる表面抗原蛋白質から構成されるワクチンを作製する技術

国際会計基準(IFRS)への移行について

2013年度および2014年度決算発表での開示方針

	2013年度 決算発表	2014年度 各四半期決算発表	2014年度 決算発表
実績	IFRS 日本基準	IFRS	IFRS
予想	2014年度 IFRS 日本基準(参考)	IFRS(修正時)	2015年度 IFRS

- 2014年度予想については、参考情報として日本基準も開示。
- IFRS移行に伴い、会社の経営における経常的な収益性を示す指標として、コア営業利益を導入。

IFRS/日本基準における当社にとって影響の大きな差異

1. 無形資産

製品、技術の導入費用は、過去に遡って原則全て資産計上

- 発売開始/使用可能時点から、特許期間または契約期間で償却
- 回収不能と判断された時点で減損

日本基準	IFRS
◆承認申請時以降の支払いのみ資産計上 （それ以外は研究開発費）	◆全て資産計上

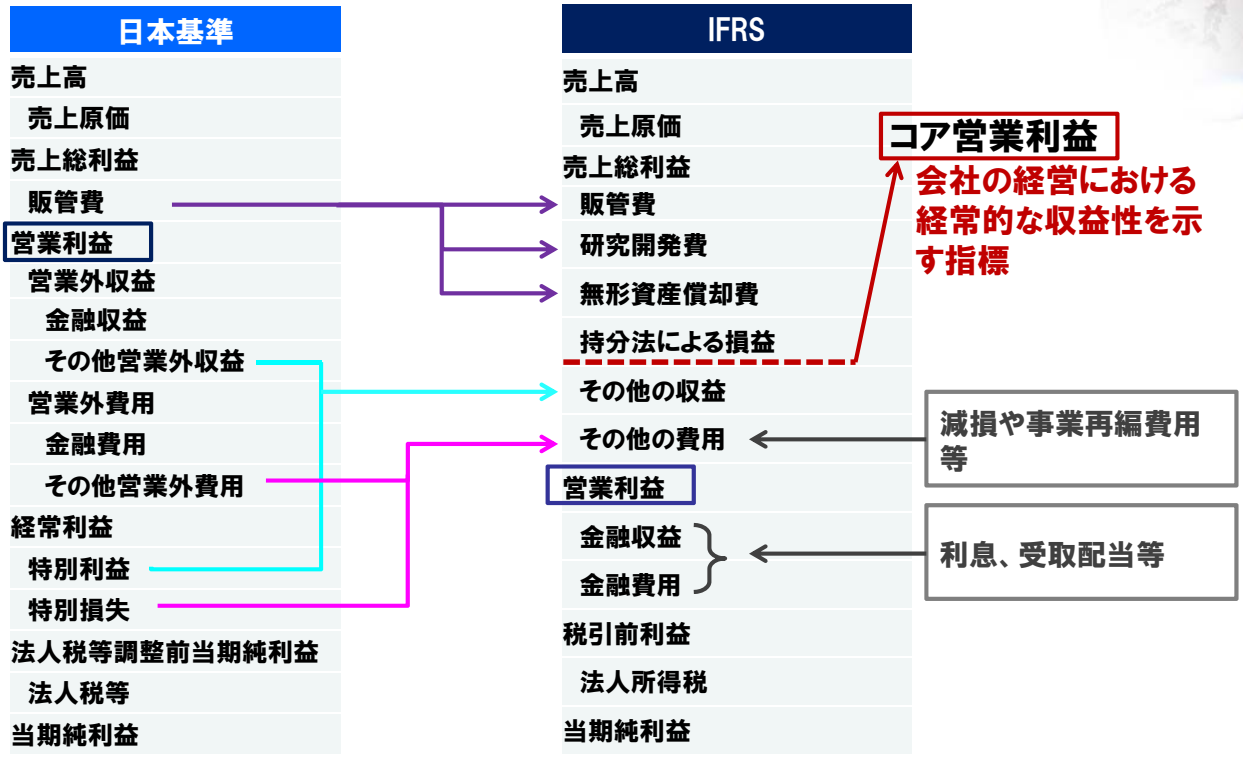
2. のれん

IFRSではのれんは償却されない

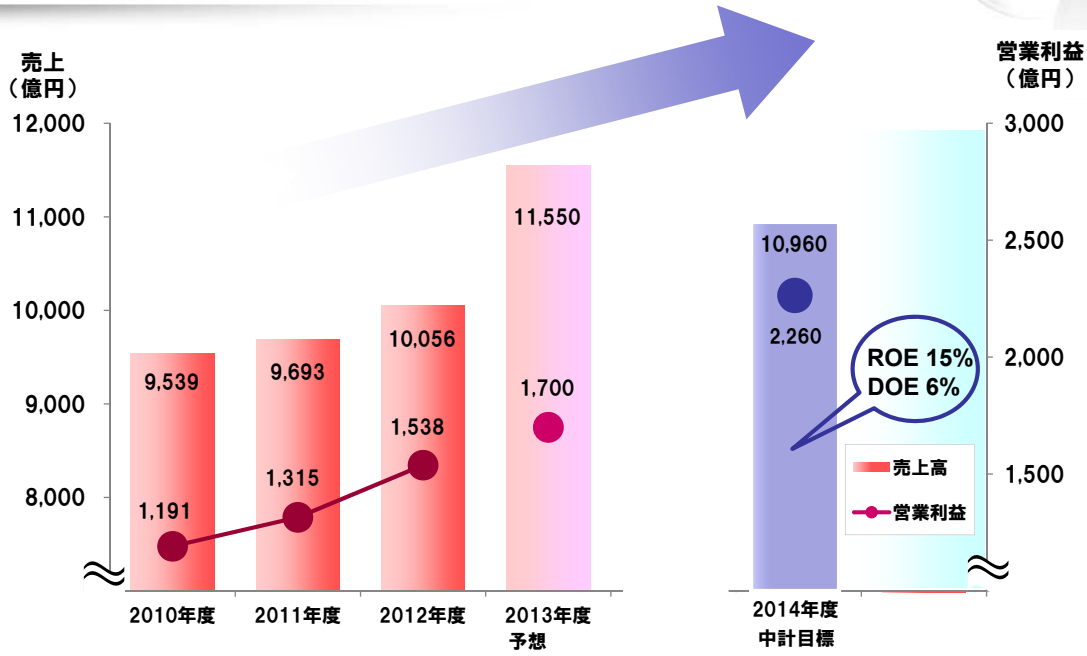
3. 特別損益の表示

特別損益、営業外損益の大半は営業内へ

損益計算書の表示の変更とコア営業利益の定義



環境変化にしなやかに対応し、持続的な成長を実現



売上高、営業利益の2013年度通期予想は、2013年11月公表値から変更なし

astellas
Leading Light for Life



明日は変えられる。

astellas
Leading Light for Life

